



磯子地区 『道を歩いて水と親しみ、歴史を辿る』

汐見台あたりに降った雨は、土にしみ込み、低いところで湧き出てきます。区役所駐車場あたりに出てくる水は、くみ上げられて歩道上の水路へと流れています。それが「磯子アベニュー」です。産業道路に沿って禅馬歩道橋まで約1,170m、幅12m、水路は延長455m。昭和61年度から平成2年度にかけて整備されました。付近住民の方々や岡村中学校の生徒さんが清掃に協力するなど、皆さんに愛されている空間です。

昭和30年代の埋立前は、ここが海岸線でした。春は潮干狩り、夏は海水浴。料亭が建ち、海苔が育てられていました。歩道に移設された「安藤橋」親柱と沿道の芦名橋公園は、戦前に現16号線を通した埋立の立役者安藤庄太郎と芦名金之助にちなんだものです。アベニューは、丘と海の町磯子の歴史と水との関わりを私たちに語りかけています。



美味しい地域情報

和食処「ひぜんや」(磯子2-20-50)

お店はドルフ安藤橋の2階にある。定食のネーミングが面白い。「出世街道に行く」のおかずはブリ刺、ブリ大根ほかである。「サザエさん」はサザエ壺焼き、カツオ刺身、ワカメ酢、タラコなど。店内には埋め立て前の磯子海岸を描いた地図が飾られている。食後はこの地図を眺め、店を出たら安藤橋の親柱と解説板を見に行くのがおすすめ。



文化で つなぐ 地域の輪

汐見台地区



『歴史と自然が調和する 団地から眺める景勝』

汐見台地区の風景は、昭和34年から始まった根岸湾の埋め立てが大きく影響しています。山林や田んぼが大半を占めていたこの場所を、工業地帯の社宅にすべく大規模な整備が行われました。その際当時としては早い段階で、塩害の防止や景観保護のため、電線の地中化が実施され、電柱や電線が見えない地区として今に続いています。当時の社宅は、建物の老朽化等により、分譲マンションや商業施設へと変化しています。また、起伏の激しい地形のため、急な坂を上っていくと、ペリー来航の際に黒船が見えたと言われる場所があります。埋め立て前は海が今よりも近く、よりダイナミックな光景が広がっていたことでしょう。また、汐見台地区の周辺では、縄文時代の貝塚が多数発見されており、このことから、昔から海と密接に関わった営みが続いていることが分かります。



美味しい地域情報

中華料理「大宅門」(汐見台1-6)

社宅やマンションを中心に構成されている汐見台。飲食店がきわめて少ない町である。そんな中でオアシスのような店が、汐見台会館1階にある中華料理「大宅門」。お勧めは本格四川担々麺だが、昼時には十種類ほどのランチメニューが用意されている。これにサラダバーをつけたら最強の昼食となる。食後は会館2階にある縄文時代の土器・石器展示コーナーを見に行くのもいい。



屏風ヶ浦地区

『屏風に開いた穴 大岡川分水路』

～海と丘と川と～

屏風ヶ浦という名前は、この辺りの海岸線が丘陵で、屏風を立てたように見えたことに由来しています。昭和30年代に埋立が始まるまでは、海苔魚介の「内湾屈指の宝庫」だったと、森町公園にある屏風浦漁協の記念碑に書かれています。丘や坂のふもとが昔の海岸線で、低地の平な所はほとんどが埋立地です。

今も残っている丘陵沿いを行くと、森二丁目の丘にぽっかりと開いた穴があります。大岡川分水路のトンネル出口です。昭和30年代後半、大岡川・日野川の上流域で急激な開発があり、川の氾濫が起りやすくなりました。そこで、大雨が降ると自然に取水口(港南区)からトンネルへ水が下り、根岸湾に直接放流できる分水路を造ったのです。昭和56年に完成しました。流れに沿った大岡川分水路河畔プロムナードには桜が植えられ、春には花見で賑わいます。



美味しい地域情報

立ち飲み「鰻屋」(森3-19-11)

「鰻屋」は屏風浦駅近くの白旗商店街の中にある。夕方、赤ちょうちんが灯ると、店内は多くの呑兵衛にぎわうと同時に、店頭販売のヤキトリを買うために、近隣のお母さんや子どもたちが並ぶ。お勧めはウナギの頭焼き。かつて、浜から杉田にかけては、根岸湾に注ぐ川が幾筋もあり、ウナギがたくさんとれたという。

